

「東海大学留学生とのサイエンスな交流」で成果発表をしました

令和8年3月10日（火）午後1時30分より、東海大学にて東海大学サイエンス・エンジニアリングカレッジオフィスのご協力のもと「東海大学留学生とのサイエンスな交流」事業における理数探究の成果発表を行いました。

この交流会は、2年生が理数探究の授業で行っている研究について英語で発表を行い、東海大学の大学院で学ぶ留学生から質問や助言をもらうものです。

生徒たちは12月11日（木）に中間発表を行い、その際にいただいた質問や助言をもとに、その後の研究を進めてきました。今回、最終的な研究成果を発表し、参加いただいた東海大学の教授や留学生からコメントをいただきました。

今年度は、理系の研究グループ2班と文系の研究グループ1班が参加しました。各グループの研究タイトルは以下の通りです。中間発表でいただいた質問や助言に基づいてその後の研究を進めた結果、中間発表時の研究タイトルから若干変更しています。

1. "Exploration of Quantitative Methods for Assessing Stress Responses in Science Classrooms"
「理科教室におけるストレス反応を評価するための定量的手法の探究」
2. "Effect of focal length and surface material on parabolic sound power generation"
「焦点距離と表面素材が放物面音響の出力に及ぼす影響」
3. "The 'Nama' Effect" : Decoding the Value of 'Raw' in food Branding"
「“ナマ”効果：食品ブランディングにおける“生”の価値を読み解く」

各発表が終わったあと、3名の留学生の研究発表を聞きました。

1. ヒトの臓器や組織の機能を模倣した臓器チップ（MPS）技術に関する研究
2. 酸素プラズマを用いて皮から不要なたんぱく質を除去し革製品の品質をあげる研究
3. ソマリアでの道路工事が予定通り進まない要因に関する研究

留学生の研究発表も英語で行われました。その内容を理解するのは難しかったですが、参加した小田原高校の生徒からは質問も出て、留学生が丁寧に説明してくれました。また、休憩時間に留学生と話をしている生徒も見受けられました。

（右 発表後に参加者全員で）



その後、東海大学熱音響システムの研究室と学生によるロケットプロジェクトを見学させていただきました。熱音響システムの研究室では、生徒たちは研究機材に触れたり実験に参加したりする機会をいただきながら、最先端の研究に触れさせていただきました。また、ロケットプロジェクトの見学では、学生が主体的にロケットの研究を行っており、実際にロケットを打ち上げていることも知り、感心していました。